

研究計画書

研究計画書の提出日 2026年 4月 27日

研究者氏名	エバンヘリスタ マクスロイ パネル
研究者の所属部署	看護部 5階病棟
研究テーマ	在日外国人の主体的受診行動に関するエンパワメントの考察 ― 受診行動に必要な支援を明らかにする ―
研究の背景・意義（先行研究及び関連文献の検討を含めて記述する）	出入国在留管理庁（2024）の報告によると、令和6年6月末現在の中長期在留者数は331万1,292人、特別永住者数は27万7,664人であり、合計すると在日外国人数は358万8,956人となっている。これは前年末と比べ17万7,964人（5.2%）増加しており、日本に居住する外国人は年々増加している。厚生労働省（2024）によれば、外国人労働者数が増加した要因として、高度人材の受け入れの推進や、留学生の日本企業への就職支援の強化が背景であると述べ、また、留学生の受け入れによる資格外活動の増加や、雇用情勢の改善による、就労制限のない在留資格者の増加も影響していると述べている。 私はフィリピン出身で、日本の看護師として10年近く働いている。その中で、知り合いの外国人から日本の医療について質問を受けることがあり、なかでも言語の違いや医療用語の理解の困難、自国との医療システムの違いを理解することが難しい場面が多いと実感している。実際、日本に居住する外国人は増えており、医療機関を受診するケースも少なくない。しかし、在日外国人の日本の医療制度や医療用語への理解不足、言語の壁などにより、適切な医療を受けられない、あるいは受診を避ける傾向が見られる。「受診したいが、言葉や制度が分からず我慢し、帰国後に受診する」という声も聞かれている。また、日常会話程度の日本語が可能な外国人であっても、医療専門用語が理解できず、受診時に強い不安を抱くケースが多い。 木村（2024）は、外国人が受診行動できない要因として 1.「医療制度がわからず、その相談窓口もわからない」、2.「言語の違いによるコミュニケーションに対する不安」、3.「経済的な問題」、4.「母国での医療予防行動に対する考え方など文化の違い」、5.「医療通訳者の不足等とされ、在日外国人の受診行動に対し、大きな影響を与えている」などと述べている。また、前述の課題に対し、在日外国人が医療相談や治療を受けることができるよう、健康教育や支援が必要だとも述べている。 以上より、在日外国人の受診行動をエンパワメントできる健康教育の仕組みが必要であることが分かる。しかし、外国人にとってどのような健康教育が有効であるか、また外国人側がどのような支援を必要としているのかについては、明らかにされていない。 本研究では、外国人患者が中小規模病院の外来や地域のクリニックを受診する際に感じる不安や困難感、さらに良い体験についても把握し、どのような支援ができるのかを明らかにすることを目的とする。
用語の操作的定義	エンパワメント：本研究におけるエンパワメントとは、外国人自身が主体的に日本の医療制度の情報を理解し、看護師が利用者をサポートし能力を引き出すことによって安心して医療を受ける能力と知識を高めることとする。
研究の目的	在日外国人が、中小規模病院の外来や地域のクリニックを受診する際に感じる不安や困難感、さらに良い体験について把握し、看護師としてどのような支援ができるのかを明らかにすることを目的とする。
研究方法	1）研究対象者 （1）日本に在住し、外来またはクリニックを受診した経験のある外国人 （2）研究参加者は、スノーボールサンプリングにて抽出する 2）研究期間 看護部倫理委員会承認後から令和8年3月まで

3) データの収集方法・内容・手順（調査用質問紙・インタビューガイド等を添付する）

研究参加候補者に対し、本研究の意義、目的について口頭で説明する。同意が得られた研究参加候補者に対し、研究目的と意義について口頭及び文書（研究計画書、同意書）で説明し、同意書の提出をもって研究参加者を定める。研究参加者には基礎データ調査用紙を用いることについて同意を得た上で、事前情報を記入してもらう。次にインタビューガイドを用いて、半構造化面接を実施する。面接時間は1人45分～60分で、プライバシーが守られる場所で行う。面接内容は、研究参加者の語りを正確に収集するために、研究参加者から同意を得てICレコーダーに録音し、録音の同意が得られない場合は、研究参加者から同意を得てメモを取り記録する。研究参加者は5名程度とする。

(1) 調査方法

- ①インタビューガイドを用いた半構造的面接法を用いる。
- ②面接日時（2025年9月～10月頃）
- ③面接場所（教会の個室）
- ④物品（ICレコーダー）

(2) 調査内容

- ①基礎データ調査用紙を用いた情報収集
- ②インタビューガイドを用いた面接

4) データの分析方法

逐語録の中から中小規模病院の外来や地域のクリニックを受診する際に感じるに関する部分を抽出し、コード化する。それらを意味内容の類似したものを分類し、サブカテゴリー、カテゴリー化する。分析に際して研究者と研究支援者の間でディスカッションを行うとともに、質的研究経験者の指導を受け、分析内容の信頼性の確保に努める。

倫理的配慮

研究対象者には、研究の趣旨と方法、研究への協力は自由意思であり参加しない場合や、途中で中断することがあっても不利益を被らないこと、得られたデータは研究目的以外に使用しないことを提示し、面接時に口頭で説明し同意を得る。また、プライバシーの保護を遵守し、本研究の情報は個人を特定できないように配慮する。データは鍵の掛かる場所に保管する。すべての電子データはインターネットに接続可能なパーソナルコンピュータに保存せず、パスワードロックがかかるUSBメモリに保存する。10年間保存し、電子データは白紙に上書きしたあとに削除する。紙媒体データはシュレッダー処理により破棄する。

同意書の手続き

- ・研究説明書、基礎データ調査用紙、インタビューガイド、同意書を用い、研究参加候補者へ文書と口頭によって本研究の手指や目的、方法、手順について説明する。
- ・研究参加に同意が得られる場合には、同意書への署名を依頼する。研究に同意した後も、いつでも研究同意の撤回ができることを説明し保証する。研究同意の撤回の申し出がある場合には、速やかに当該研究参加者のデータを削除するが、データ統合後には該当データの削除は困難であり、同意の撤回が不可能であることを説明する。

結果の公表予定

本研究の成果については、聖隷袋井市民病院看護研究論文として提出し、院内発表および聖隷看護学会で発表する。

引用・参考文献

1. 井上 由紀江 萩村 友絵 吉川 美喜：異国で入院となった患者の心理を知る ～外国人患者が安心できる援助をめざして～、市立千歳市民病院医誌 第6巻 第1号 （2010） 51、（参照2025/7/15）
2. 野中千春 樋口 まち子：在日外国人患者と看護師との関係構築プロセスに関する研究 国立国際医療研究センター国際医療協力部 国立看護大学校、<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390001205233880960>（参照2025/8/19）

3. 木村 清子 師岡 友紀：日本に在留する外国人の受療行動における課題に関する文献レビュー <https://cir.nii.ac.jp/crid/1390581312577991680> （参照2025/8/19）
4. 外国人労働者数が増加した要因、厚生労働省、https://www.mhlw.go.jp/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/2017/06_01.html （参照日：2025/8/19）
5. 外国人人口、出入国在留管理庁、https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00047.html （参照日：2025/8/19）